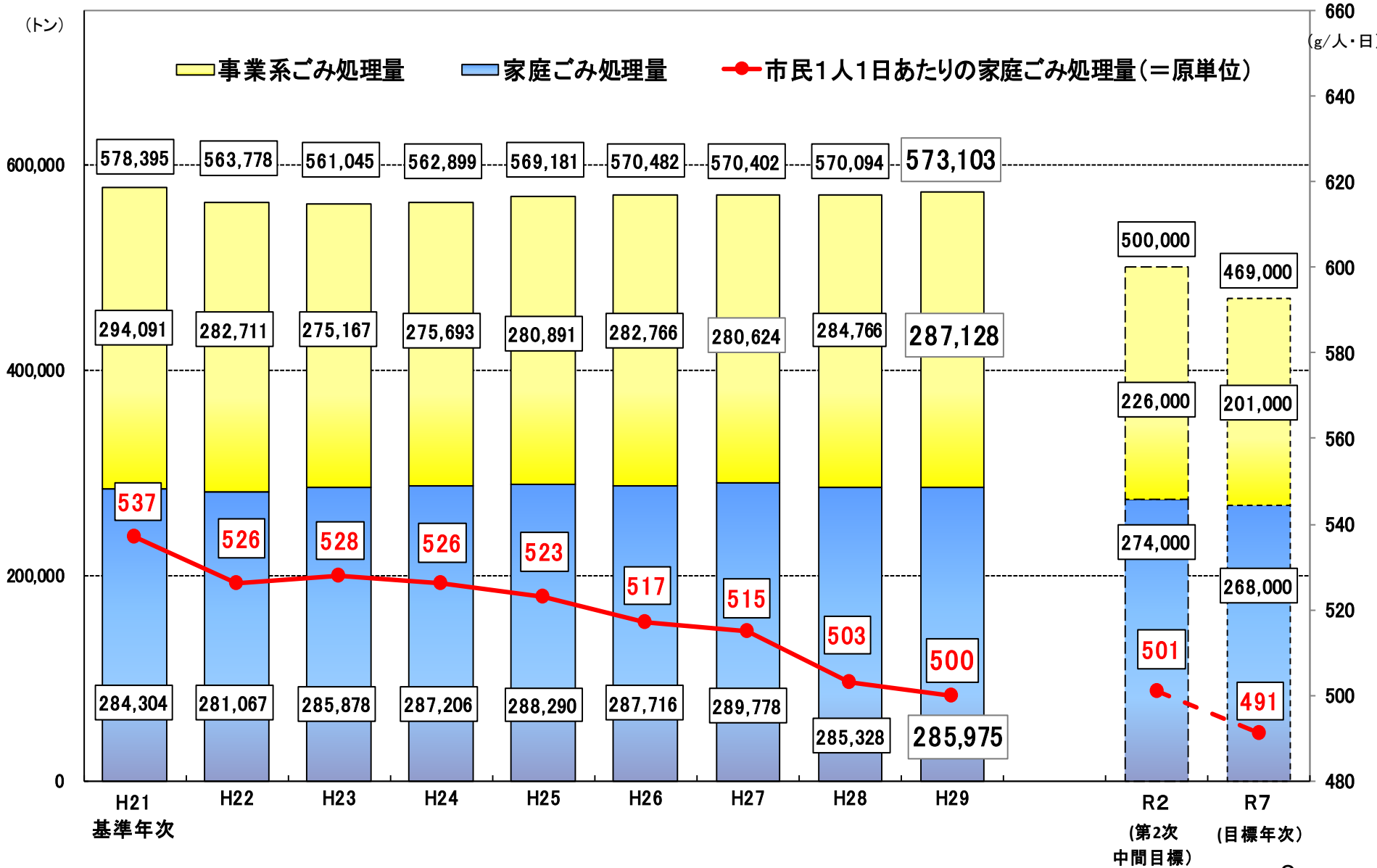


ごみ減量の取組みについて



令和元年 8月29日

ごみ処理量の推移



主なごみ減量の取組み

家庭ごみの減量施策

減量 施策 01

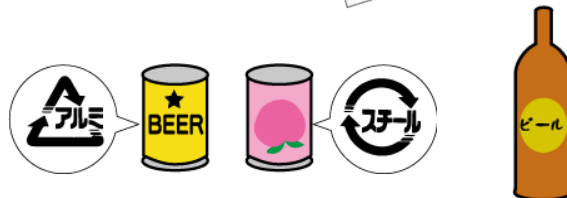
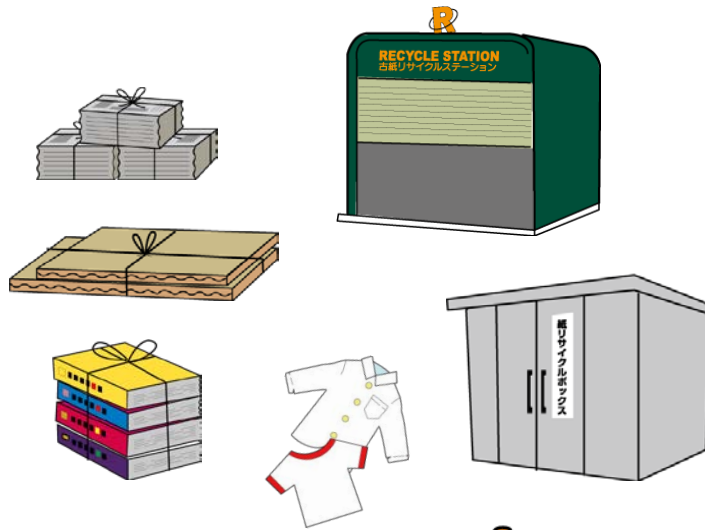
地域集団回収等の支援

地域の団体が回収した古紙等に報奨金を交付することで、資源の循環利用を促進。

地域団体へ回収量に応じた報奨金を交付
(回収量 1kgあたり5円)

対象品目:

古紙・空き缶・リターナブルびん・布類



(平成29年)

回収団体数	1,969 団体
回収量	約2万8千ト
回収拠点数	約 430 か所

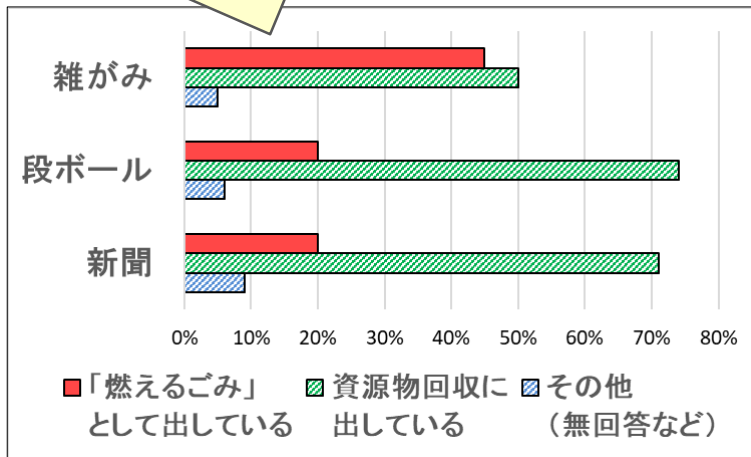
家庭ごみの減量施策 その2

減量 施策 02

拠点での資源物回収 ～雑がみ回収の強化！～

新聞，段ボールに比べて回収が進んでいない包装紙や封筒などの雑がみについて，種類やしし方などを印刷した『雑がみ回収専用袋』を作成・配布し，リサイクルを促進。

- 市民アンケート調査結果によると
- 雑がみは約5割が燃えるごみとして出されている
 - 主な理由は「リサイクルできる雑がみの種類が分からない」



公共施設や地域の回収拠点の利用者へ
『雑がみ回収専用袋』を配布



全小学校で実施する環境学習においても配布

雑がみの認知度を高めその回収を促進

家庭ごみの減量施策 その3

減量 施策 03

3R推進事業 ～夏休み親子3R体験ツアーを開催！～

清掃工場で福岡市の食品ロスの発生状況と家庭でできる対策等について学ぶとともに、実際に食材を無駄にしない買い物の仕方や食材を使い切るエコクッキングを親子で体験する講座を実施。

福岡市の家庭から出る生ごみの状況

- ★福岡市の家庭から出る燃えるごみの約3割が生ごみ
- ★生ごみのうち、約1割が食品ロスの原因の一つである
手つかずのまま捨てられている食品



福岡市で実際に捨てられていた食品

親子体験教室の開催



エコクッキング



ごみの現状を学び・考える



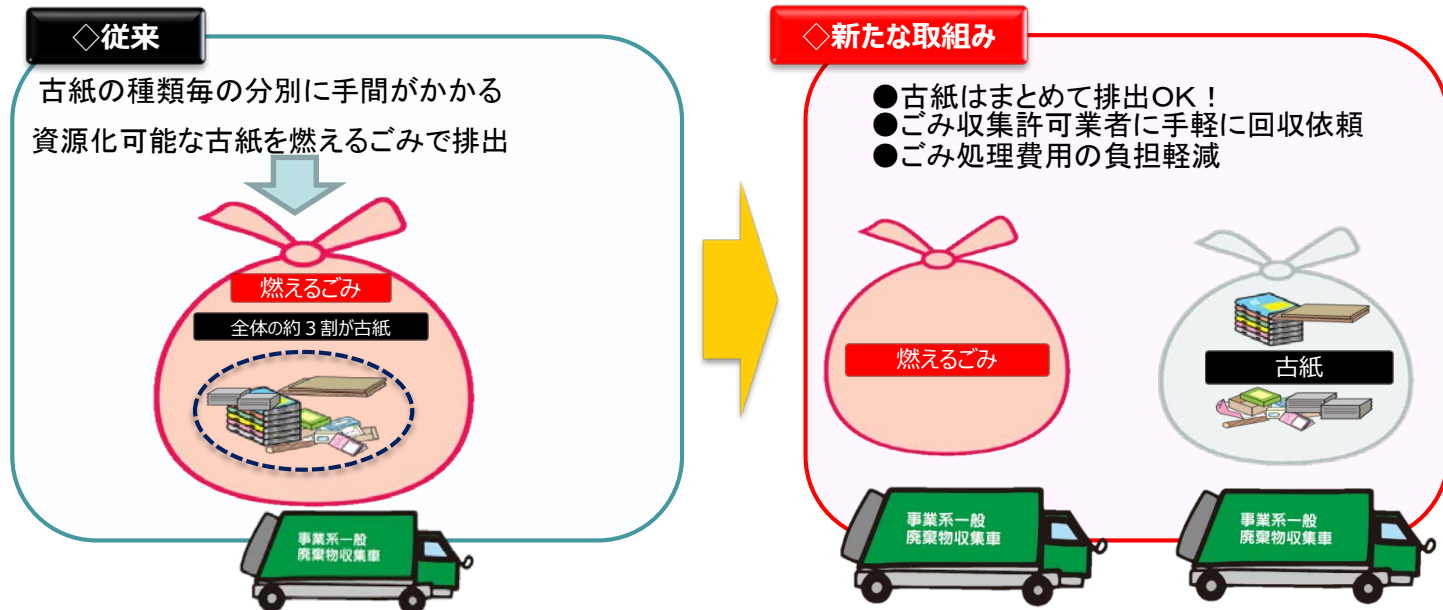
無駄のない買い物疑似体験

事業系ごみの減量施策 その1

減量 施策 01

事業系ごみ資源回収推進事業 ～事業系古紙の資源化を強化！～

平成30年度からごみ収集許可業者のごみ収集ルートを活用して、現在リサイクルされていない事業系古紙を回収し、資源化を促進。



新たな取組みを排出事業者へ周知・啓発

- 事業系ごみルールブックを改訂し、市内全事業所(約7万事業所)へ配布
- 立入指導等による排出事業者への周知・啓発及び業界団体への働きかけ

事業系ごみの減量施策 その2

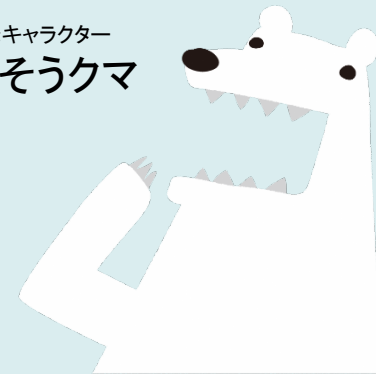
減量 施策 02

もったいない！食べ残しをなくそう福岡エコ運動

福岡エコ3項目



福岡エコ運動啓発キャラクター
ごちそうクマ



事業系ごみ資源化情報発信サイト



- 事業系ごみの資源化に関する情報発信
- 小規模事業者と古紙回収業者のマッチング

プラスチックごみ対策

「プラスチック資源循環戦略」（令和元年5月31日策定）

廃プラスチック有効利用率の低さや海洋プラスチック等による環境汚染が世界的に問題となる中、日本においてもプラスチックの国内資源循環が求められるようになったことから、今年度策定された。



〈福岡市の主な取組み〉

マイボトル・マイカップ推進事業

ペットボトル等のプラスチックごみ削減に向けて、講堂や会議室が集中する市役所15階に給茶機を設置し、会議等におけるマイボトルや急須・湯呑などの使用を推進。

ラブアース・クリーンアップ2019

毎年6月の環境月間に「地球環境と地域行動」の実践として、市民、企業、行政が協力し、海岸、河川、山なみ、公園等の散乱ごみを一斉清掃しており、今年度は「プラスチック・スマートキャンペーン」の一環として実施。

